

講師略歴（敬称略）

※随時更新いたします

木村 廣道

（東京大学政策ビジョンセンター ライフスタイルデザイン研究ユニット 特任教授、
東京大学院薬学系研究科ファーマコビジネス・イノベーション教室 客員教授）

東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了（薬学博士）、スタンフォード大学大学院ビジネススクール修了（MBA）。協和発酵、モルガン銀行を経て、アマシャムファルマシアバイオテック(株)代表取締役社長、日本モンサント(株)代表取締役社長を歴任。

2002年より東京大学大学院薬学系研究科ファーマコビジネス・イノベーション教室特任教授、2016年4月より客員教授（現職）。2013年より文部科学省「革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）」拠点COINSプロジェクト統括。

(株)ライフサイエンスマネジメント 代表取締役、(株)ファストトラックイニシアティブ 代表取締役、および一般社団法人 医療産業イノベーション機構 理事長を兼務。経済同友会幹事、日本スタンフォード協会理事、大隅財団理事を務める。2018年11月より、東京大学政策ビジョン研究センター ライフスタイルデザイン研究ユニット特任教授兼任。

安西 智宏（株式会社ファストトラックイニシアティブ 取締役 マネージングパートナー）

2006年にFTIに参画し、ファンド運営責任者として投資案件の発掘から企業設立、育成、投資回収までの幅広い業務を担当。FTI参画前は、アーサー・D・リトル（ジャパン）株式会社で国内外企業の経営コンサルティングに従事。医薬品・診断薬メーカー、研究開発支援機器・試薬メーカー、食品メーカーなど、バイオテック・ヘルステック企業の経営戦略やR&D戦略など多様な経営課題を扱う。

東京大学トランスレーショナル・リサーチ・イニシアティブ特任准教授、京都大学 物質-細胞統合システム拠点（iCeMS）客員准教授、東京大学薬学部 非常勤講師等を歴任。2012年には内閣官房 医療イノベーション推進室に在籍。「バイオベンチャーと投資家の対話促進研究会」、「再生医療の周辺産業に関する調査委員会」等の政府系委員を歴任。

東京大学理学部生物学科卒業。同大学大学院新領域創成科学研究科博士課程修了。博士（生命科学）。マサチューセッツ工科大学（MIT）スローン校 AMP 修了。

廣安 ゆきみ (READYFOR 株式会社 クラウドファンディング事業部ソーシャルインパクト部門 リードキュレーター)

広島県の過疎地域で歯科医療に携わる両親のもとに生まれる。

医療の道と悩んだ結果、東京大学に進学。文学部（思想文化学科）を卒業後、出版社へ。雑誌編集者を経験し、2016年からREADYFORへ参画。2017年、准認定ファンドレイザー資格取得。

現在、医療、福祉、国際協力などの分野を専門に扱うソーシャルインパクト事業部に所属。

篠原 智昭 (一般社団法人 こいのぼり 理事)

2003年上智大学外国語学部ドイツ語学科卒業。同年、神奈川県公立学校行政職員に入庁、小学校の事務職員として勤務。2012年、実娘の七海が生後間もなくミトコンドリア病 Leigh 症候群を発症し、余命宣告を受けたことをきっかけに、一般社団法人こいのぼりのメンバーとなり活動を共にする。2017年、鎌倉市立御成小学校勤務を最後に学校職員を辞し、一般社団法人こいのぼり理事（専任）、同年7月、日本で初めてとなる患者家族発難病創薬プロジェクト「7 SEAS PROJECT」を設立し代表となる。2018年11月、同じく日本初となる患者家族設立創薬ベンチャーをこいのぼりよりスピンオフし、代表取締役役に就任予定。

山部 清明 (公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 COO)

GHIT Fundの内部統括責任者(オペレーション, HR, 法務, コンプライアンスを中心にファイナンス及び投資を統括)。25年以上にわたり製薬・ヘルスケア分野でのマネジメントに従事。またファーストリテイリング(UNIQLO)の海外事業責任者としてロンドン店の立ち上げを行った異色の経歴も持つ。スイス、オーストラリア、英国、米国で7年間の勤務経験を経て、直近では Carestream Health (KODAK) 社と CSL Behring 社の日本法人の代表取締役社長を8年間務める。西南学院大学卒、スイス IMD にて MBA 取得。

藤本 利夫 (湘南ヘルスイノベーションパーク ジェネラルマネジャー)

京都大学医学部卒・医師免許取得、神戸大学大学院経営学修士MBA

94年京都大学胸部疾患研究所入局。

99年ドイツアーランドクリニック胸部外科医員、01年京都桂病院呼吸器センター副医長、

03年ドイツフライブルグ大学胸部外科医員、

04年アメリカメイヨークリニック一般胸部外科臨床フェロー、

05年静岡市立病院呼吸器外科医長。06年日本イーライリリー株式会社にて研究開発本部長執行役員、研究開発本部担当、副社長を歴任。

17年12月1日湘南ヘルスイノベーションパークのジェネラルマネジャーに着任

湘南ヘルスイノベーションパークにおける業務執行全般（事業推進および執行、経営企画、事業部門の管理パートナーの誘致およびマネジメント、ならびに広報機能）の責任を担い、湘南の地におけるヘルスイノベーションパークを、日本初の製薬企業のノウハウを活かしたオープンでイノベティブな創薬エコシステムを創設することに力を注いでいます。

鄭 雄一

（東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻教授、同大学院医学系研究科疾患生命工学センター教授、

同センター・オブ・イノベーション(COI) 自分で守る健康社会拠点 副機構長・研究リーダー)

医工学者／道徳哲学者 1964年新宿区戸山生まれ。

平成元年に東京大学医学部医学科を卒業、内科研修医および医員として勤めた後に、東京大学大学院医学系研究科に入学。在学中の平成7年に米国マサチューセッツ総合病院に留学し、ハーバード大学医学部講師、助教授を勤めた後、平成13年に東京大学に戻り、平成19年より東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻教授。平成25年よりJSTセンター・オブ・イノベーション「自分で守る健康社会」拠点副機構長・研究リーダー。平成28年より東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター教授を兼務。

専門は、骨・軟骨の生物学、再生医学、バイマテリアル工学。医学と工学を融合することで、生体に働きかけて治療や再生を促す高機能デバイスの開発に従事している。センター・オブ・イノベーションでは、「自分で守る健康社会」という将来ビジョンのもと、10以上の産学協創プロジェクトを推進し、「入院を外来に、外来を家庭に、家庭で健康に」をテーマに、健康状態を可視化し行動変容を促すことで、健康医療イノベーションを興そうと試みている。イノベーションと道徳の関わりについても研究しており、道徳エンジンを人工知能やロボットに搭載することも試みている。

著書：

「東大教授が挑む AIに『善悪の判断』を教える方法」扶桑社新書（2018）

「東大理系教授が考える 道徳のメカニズム」KK ベストセラーズ（2013）

「[図解] 骨博士が教える『老いない体』のつくり方」WAC（2011）

紅煤 英信

（公益財団法人日本スケート連盟 スピードスケート強化部委員 情報部門責任者
社会医療法人財団慈泉会相澤病院スポーツ障害予防治療センター 科学研究員）

1980年1月16日京都府生まれ。

筑波大学第三学群工学基礎学類卒業。

筑波大学大学院修士課程体育研究科修了。

高校まで陸上競技をしていたが、筑波大学入学後にスピードスケートを始める。

2007年から日本スケート連盟スピードスケート科学班スタッフ、2014年から2018年まで科学班の責任者を務める。

2018年からは新設された情報部門の責任者を務める。

2018年平昌オリンピックでは日本選手団のスピードスケート技術スタッフとして帯同。

2014年4月～現在 相澤病院スポーツ障害予防治療センター勤務。

小林 寛道（東京大学名誉教授 東京大学スポーツ先端科学研究拠点特任研究員）

昭和18年(1943)生まれ東京大学教育学部・大学院修了（教育学博士）。名古屋大学助教授、東京大学教授（総合文化研究科）、特任教授（新領域創成科学研究科）を歴任。2018年現在、東京大学スポーツ先端科学研究拠点特任研究員、静岡産業大学特別教授。

（一社）日本体育学会会長、日本発育発達学会会長、日本介護福祉・健康づくり学会会長、
（財）日本陸上競技連盟科学委員長、*NPO 法人東大スポーツ健康マネジメント研究会理事
長、*公益財団法人健康体力づくり事業財団理事、などを歴任（*は就任中）。

専門：子ども・青少年の体力・運動能力の発育発達、スポーツ選手のパフォーマンス向上、中高齢者の健康づくりに関する研究に従事。認知動作型トレーニングマシンを開発し、これらを用いたトレーニングの指導や、小規模トレーニングジム（「十坪ジム」）を設置し、多くの高齢者の運動指導に当たっている。東京大学駒場キャンパスのQOMジム発案者。スポーツ科学を生かした健康長寿の科学をはじめ、「生きたスポーツ科学」の社会的実践に挑んでいる。

主な著書

東大式世界一美しく正しい歩き方 日本文芸社（2018）

健康寿命を延ばす認知動作型QOMトレーニング 杏林書院（2010）

運動神経の科学 講談社現代新書（2004）

大腰筋の歌体操 杏林書院（2006）

ランニングパフォーマンスを高めるスポーツ動作の創造 杏林書院（2001）

永富 良一（東北大学大学院教授 医工学研究科副研究科長

医工学研究科健康維持増進医工学研究分野 医学系研究科運動学分野）

東北大学大学院医工学研究科教授・副研究科長

運動・スポーツ医科学の専門家、子どもから高齢者まで、虚弱者からスポーツ選手まで、故障しない元気な体づくりの研究を推進している。

東北大学医学部医学科卒業。東北大学教養部保健体育学科助手、同医学系研究科助手、同医学系研究科障害科学専攻教授を経て、現在に至る。博士（医学）。トレーニングによる骨格筋の適応、骨格筋損傷・修復のメカニズム、高所・低酸素トレーニングのメカニズムの解明、運動・ストレス時の免疫系の変化、ウェアラブルセンサーによる動作・行動解析、スポーツ障害の予防、健康増進のための運動などを主要な研究テーマとしている。

学位・資格：医学博士 / 日本体育協会公認スポーツドクター

主な所属学会および役員：

国際運動免疫学会（元会長・理事）

日本体力医学会（副理事長）

バイオメカニズム学会（評議員）

ヨーロッパスポーツ科学会議（評議員）

日本臨床スポーツ医学会（評議員）

日本老年医学会（評議員）

米国スポーツ医学会

日本公衆衛生学会 他

美濃部 慎也 (株式会社ユカシカド 代表取締役(CEO))

1980年生まれ。関西学院大学卒業。アメリカンフットボール部に所属。2006年株式会社リクルートに入社し求人領域の営業、フリーペーパーの企画を経てオイシックス株式会社に出向。その後リクルート社とオイシックス社のJVである株式会社ごちまるに出向。2013年株式会社リクルートを退職。同年、株式会社ユカシカド設立。

経済産業省主催

ジャパンヘルスケア・ビジネスコンテスト2018 優秀賞、東洋経済「すごいベンチャー100」、週刊ダイヤモンド「日米ヘルステック・スタートアップ20選」

山崎 真五 (日本製薬工業協会 研究開発委員会専門副委員長)

2002年、東京大学大学院 薬学系研究科博士課程を修了後、同年4月に旧 山之内製薬株式会社(現アステラス製薬株式会社)に入社し、化学研究所にて主に中枢神経科学領域の創薬研究に従事。2013年4月から2014年3月まで、ハーバード大学およびBROAD Institute of Harvard & MITに留学。帰国後は癌研究に従事しながら、2016年5月より日本製薬工業協会 研究開発委員会 専門副委員長および産学官連携部会 副部長(2018年9月より部長)に就任、同時にアジア製薬団体連携会議(APAC)創薬連携ワーキンググループ(DAEWG)の中国リーダーを務めている。現在はAPAC DAEWG 活動を通じて、創薬におけるアジア連携を推進している。

菊池 武恭 (如是株式会社 代表執行役)

Graduated from Tokyo university of Agriculture, faculty of biotechnology 1992

Founded NYOZE Corporation Japan in 2016

Head of multiple research projects appointed by Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Responsible for plastic recycle research projects appointed by METI

Member of Universität Kassel technology Committee

Published 22 WPC relevant thesis in Japan, EU, North America, Asia, etc.

Thesis

“The Technology for Manufacturing Wood Filled Plastic with Superior Properties to Natural Wood, and the Market thereto” 1st International Wood and Natural Fibre Composites Symposium in Kassel/Germany (1998)

“The Development of the Wood Fibre Filled Plastic Composites and New Products in Japan” 3rd International Wood and Natural Fibre Composites Symposium in Kassel/Germany

“The development of wood fiber plastic composites in Japan and their application. 1st Central European Conference Recycling of Polymer Materials Science-Industry in Szczecin/Poland(2001)

The Development of EinWood Composites- New Wood Fibre Filled plastic Composites from Japan Progress in Woodfibre-Plastic Composites Conference 2002 / in Toronto/Canada(2002)

“Wood Plastic composites for furniture application Woodfibre-Polymer Composites Symposium 2003 / in Bordeaux/France(2003)

“Wood Plastic composites for furniture application 7th International Conference on Woodfiber-Plastic Composites / in Madison/USA(2003)

Opportunity for Interior furniture in Wood Plastic composites –a Japanese perspective Wood -Plastic Composites conference / in Vienna/Austria(2003)

“The key challenge for WPC manufacturer / in Vienna/Austria(2004)

“The new opportunities and challenge for WPC in the growing Asia market /in Vienna/Austria(2005)

Marketing and Standards for WPC’s in Japan and Europe”6th International Wood and Natural Fibre Composites Symposium / in Kassel/Germany(2006)

Epoch making WPC furniture modern Japanese design 3rd Woodfibre-Polymer Composites Symposium 2007 / in Bordeaux/France(2007)

Specific requirement for high class architecture design – and markets in east asia”7th International Wood and Natural Fibre Composites Symposium / in Kassel/Germany(2008)

Marketing and standards in the asian market”/ in Vienna/Austria(2008)

Acceptation du marche des composites bois-polymeres par la design architectural et normes pour le marche asiatique” 4rd Woodfibre-Polymer Composites Symposium 2009/in Bordeaux/France(2009)

New Foaming Technology of WPC and its Development and Applications”/ in Vienna/Austria(2010)

Marketing and Standards in the Asian Market”/ 11th International Conference on Woodfiber-Plastic Composites / in Madison/USA (2011)

Marketing and Standards in Japan ”/ in Hubei/China(2011)

Application of foam wood plastic composites for civil engineering” / in Biarritz/France(2011)

WPC Foam Technology and its applications” / in Vienna/Austria(2011)

EINWOOD Aluminum Hybrid technology and Non decking market” / in Milwaukee/USA (2013)

Yan Zhu, Ph.D. (WuXi AppTec, Head of Business Development Japan)

Yan Zhu currently is the Head of Business Development Japan of WuXi AppTec, a global CRO and CDMO offering end-to-end integrated technology and capacity platform covering drug discovery, development, and manufacturing, responsible for entire WuXi AppTec group line of services. Dr. Zhu has accumulated over 20 years of extensive expertise in both biotechnology and pharmaceutical industries in drug discovery and development. He has broad knowledge and experience in drug discovery in various therapeutic areas, including diabetes, obesity, cardiovascular, infectious disease, and cancer. He also has extensive experience in drug development with management of number of preclinical and clinical development candidates. Additionally, Dr. Zhu has extensive experience in external collaboration and strategic partnership, include licensing, joint venture, and strategic investment. Prior taking on the current role, Dr. Zhu was VP and head of operation for International Discovery Service Unit (IDSU) of WuXi AppTec.

Dr. Zhu was a trained chemist with Ph.D. from the Scripps Research Institute in the US. Having worked in the biotech companies in the San Francisco area, such as Genentech, Theravance, and Metabolex, Dr. Zhu became the head of medicinal chemistry in the Lilly Singapore Centre for Drug Discovery, responsible for discovery portfolio in oncology and metabolic diseases. Later on, Dr. Zhu joined Takeda Pharmaceutical Research Center in Japan as a director in the Medicinal Chemistry Research Laboratories before moving to WuXi AppTec.

高江 慎一 (独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA))

医療機器審査第一部 部長 薬剤師)

- 1993年3月 大阪大学薬学科卒業
- 1994年3月 大阪大学大学院薬学研究科を中退
- 1994年4月 厚生省に入省
医薬品機構、環境庁大気規制局、経済開発協力機構（OECD）勤務等の後、厚生労働省医薬食品局内の異動
- 2010年7月 厚生労働省医薬食品局審査管理課医療機器審査管理室室長補佐
(2011年1月～2012年9月 内閣官房医療イノベーション推進室併任)
- 2012年9月 厚生労働省医政局研究開発振興課課長補佐、医政局経済課課長補佐
- 2015年10月 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 医療機器審査第一部長

**山田 泰永 (NVIDIA 合同株式会社 エンタープライズ事業部シニアマネージャー
メディカル・ライフサイエンスビジネス責任者兼スタートアップ・技術パートナー支援担当)**

- 1998年より半導体企業にて、事業開発、プロジェクトマネジメントに従事
- 2004年にエヌビディア合同会社に入社、PC/ワークステーション向け GPU の事業開発に従事
- 2015年より映像監視や組み込み領域に向けたディープラーニング事業開発を担当
- 2016年よりメディカル・ライフサイエンス領域の事業開発、およびスタートアップ企業支援・連携を担当

大田 信行 (Preferred Networks America, Inc. 最高執行責任者)

- イェール大学の分子生物物理学と生化学博士号取得。カルフォルニア大学サンフランシスコ校 (University of California, San Francisco)

(UCSF))の生物物理学科とハワードヒューズ医学研究所でポストドクトラルフェロー及び
研究員として従事。その後バイオテック企業A-CUBE、コンピュータ支援抗体医薬品会
社を創業。現在は Preferred

Networks America, Inc.の COO として医療への AI 技術の導入・実用化を推進。東京理科大客
員教授。

江崎 禎英 (経済産業省 商務・サービスグループ 政策統括調整官

(兼) 厚生労働省医政局統括調整官 (兼) 内閣官房健康・医療戦略室 次長)

1964 年岐阜県生まれ。89 年に東京大学教養学部教養学科国際関係論分科を卒業し、通商産
業省 (現・経済産業省) 入省。通商、金融、IT 政策のほか、大蔵省 (現在の財務省、金融
庁) で金融制度改革、内閣官房で個人情報保護法の立案に携わり、EU (欧州委員会) に勤
務。その後、ものづくり政策、外国人労働者問題、エネルギー政策を担当し、岐阜県への
出向を経て 2012 年から健康医療分野に携わり、2017 年から現職。

久世 和資 (日本アイ・ビー・エム株式会社 最高技術責任者 工学博士 執行役員)

1987 年 IBM 入社、東京基礎研究所に副主任研究員として配属。プログラミング言語
およびソフトウェア・エンジニアリングの研究に従事。プログラミング言語担当、
ソフトウェア・テクノロジー担当などを経て、2004 年 IBM 東京基礎研究所長、日本
IBM 理事就任。2005 年執行役員就任。2006 年より米国ニューヨークの IBM 本社に海外
赴任。帰国後、システム開発研究所長、サービス・イノベーション研究所長を経て
、2008 年未来価値創造事業部長に就任。2009 年研究開発担当。2017 年より現職。筑
波大学大学院工学研究科修了。コンピュータ・サイエンス専攻。工学博士。

喜連川 優 (国立情報学研究所 所長 東京大学生産技術研究所 教授)

国立情報学研究所所長、東京大学生産技術研究所教授。1983 年東京大学大学院工学系
研究科博士課程修了。工学博士。情報処理学会元会長、日本学術会議情報学委員長な
どを務める。データベース工学の研究に従事。内閣府最先端研究開発支援プログラム

中心研究者。2009年 ACM SIGMOD コッド革新賞、2013年紫綬褒章、2016年レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエを受章。その他、全国発明表彰「21世紀発明賞」、C&C賞等を受賞。ACM、IEEE、電子情報通信学会、情報処理学会フェロー。

加藤 浩晃 (デジタルハリウッド大学大学院 客員教授、アイリス株式会社 取締役 CSO、医師)

2007年浜松医科大学卒業。眼科専門医として1500件以上の手術を執刀、白内障手術器具や眼科遠隔医療サービスを開発。2016

年京都府立医科大学から厚生労働省へ出向、室長補佐として臨床研究法の制定などに関わる。退官後は、デジタルハリウッド大学大学院客員教授、AI

医療機器開発のアイリス株式会社で取締役 CSO (Chief Strategy Officer

) を務めつつ、東北大学非常勤講師、厚生労働省医療ベンチャー支援 (MEDISO) 非常勤アドバイザー、経済産業省 J-Startup

推薦委員、一般社団法人日本医療ベンチャー協会理事なども務める。著書として「医療 4.0」(日経 BP 社) など。

阿部 吉倫 (Ubie 株式会社 代表取締役、医師)

2015年、東京大学医学部医学科卒。東京大学医学部附属病院、健康長寿医療センターで最先端医療と高齢者医療の最前線を経験。その傍ら膨大な文献からデータベースを生成し、問診質問選定アルゴリズムを開発。2017年、世界に誇る日本の医療保険制度の存続を願い、医療現場を技術の力で手助けするべく Ubie 株式会社を創業。現在に至る。

沖山 翔 (アイリス株式会社 代表取締役、医師)

2010年東京大学医学部卒業。日本赤十字社医療センター(救命救急)での勤務を経て、ドクターヘリ添乗医、災害派遣医療チーム DMAT 隊員として救急医療に従事。2015年

医療ベンチャー株式会社メドレー執行役員として勤務。2017年

アイリス株式会社を創業、AI医療機器の研究開発を行う。産総研 AI技術コンソーシアム委員・医用画像ワーキンググループ発起人、同 AI研究センター研究員、救急科専門医

園田 正樹 (CI Inc. CEO、東京大学医学部附属病院 産婦人科 医師)

2001.3 新潟県立高田高校 卒業

2008.3 佐賀大学医学部 卒業

2015.4 東京大学大学院博士課程医学系研究科 生殖・発達・加齢医学専攻 入学
(公衆衛生学教室在籍、学内研究委託)

2018.10 休学

職歴

2008.4 自治医科大学附属病院 初期研修 入職

2011.4 東京大学附属病院 産婦人科 入局

2012.4 長野赤十字病院 入職

2014.2 公立昭和病院 入職

2015.4- 東京山手メディカルセンター 産婦人科 (非常勤)

現職

CI Inc. Founder / CEO

産婦人科医 (東京大学 産婦人科教室)

東京大学大学院 公衆衛生学教室 (10月より休学)

日本産科婦人科学会 中央専門医制度 委員 医療改革委員会 構成員 未来委員会 若手委員

日本産婦人科医会

「若手医師と勤務医に産婦人科医業の将来を魅力あるものと感じさせるための方策を考えるプロジェクト委員会」委員

中山 俊 (アンター株式会社 代表取締役、翠明会山王病院 整形外科 医師)

デジタルハリウッド大学大学院 15期生

鹿児島県出身。鹿児島大学医学部を卒業後、東京医療センターで初期研修。2016年にアンター株式会社を創業し、医療現場の医師が相互に助け合う、実名制の医師同士の相談サービス「Antaa QA」を運営、テレビ東京 WBS のイノベーションズ列伝にも取り上げられる。

原 聖吾（株式会社 MICIN 代表取締役、医師）

国立国際医療センター、日本医療政策機構、マッキンゼー等を経て株式会社 MICIN を創業
日本医療政策機構フェロー、横浜市立大学非常勤講師
日本医療ベンチャー協会理事
東京大学医学部卒、スタンフォード MBA

加納 浩之（一般社団法人再生医療イノベーションフォーラム 事務局長）

1991年、名古屋市立大学大学院 薬学研究科修了後、同年4月に旧 山之内製薬株式会社（現アステラス製薬株式会社）に入社し、薬理研究所に10年勤務。骨粗鬆症、変形性膝関節症、慢性関節リウマチ等の創薬研究に従事し、骨粗鬆症治療薬の上市に携わる。2002年10月、開発本部に異動し国内外の臨床開発に10年以上従事。アジア開発室長として欧米と連携しアジア各国の臨床試験マネジメントを行うと共に、腎臓領域室長として導入品評価、慢性腎不全治療薬、腎性貧血治療薬の開発および、高リン血症治療薬等の上市に携わる。2016年4月より渉外部で経団連、製薬協等の業界活動に2年間従事した後、2018年4月アステラス製薬より再生医療イノベーションフォーラム（FIRM）に出向。同年7月より現職。

今川 究（JCR ファーマ株式会社 研究本部 研究所 再生医療研究部 部長）

神戸大学大学院医学系研究科（博士後期課程）修了。医学博士。

1998年 JCR ファーマ株式会社（当時、日本ケミカルリサーチ株式会社）入社。2003年「ヒト間葉系幹細胞製品」の研究開発開始。開始時から本業務に従事。開発の進捗に伴い、研究本部、生産本部、開発本部（兼任）にて本品の研究開発業務を推進。2015年9月に日本

で初めてのヒト（同種）再生医療等製品「テムセル®HS 注」（適応症：造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病（GVHD））の承認を取得。2016年2月より販売開始。既に200例を超える患者様に投与されている。現在は、新たな再生医療等製品として、ヒト（同種）歯髄由来幹細胞の研究開発に従事（適応症：急性期脳梗塞）。

楠本 啓司（武田薬品工業株式会社 再生医療ユニット オペレーション&プロジェクト推進室室長）

1987年 3月	大阪大学大学院	生物専攻分野修了
1987 4	武田薬品工業	中央研究所 勤務
1998 3	西オンタリオ大学医学部（カナダ）	客員研究員
2000 10	武田薬品工業	創薬第一研究所 主席研究員
2012 7	武田薬品工業	循環代謝疾患創薬ユニット オフィスヘッド
2016 7		現職

専門分野：循環器系疾患の薬理学

武部 貴則（東京医科歯科大学 統合研究機構 教授

横浜市立大学 先端医科学研究センター 教授

シンシナティ小児病院 オルガノイドセンター副センター長

シンシナティ小児病院 消化器部門・発生生物学部門 准教授）

2009年米スクリプス研究所（化学科）研究員、2010年米コロンビア大学（移植外科）研修生を経て、2011年、横浜市立大

学医学部医学科卒業。同年より横浜市立大学助手（臓器再生医学）に着任、電通×博報堂ミライデザインラボ研究員を併任。2012年からは、横浜市立大学先端医科学研究センター研究開発プロジェクトリーダー、2013年より横浜市立大学准教授（臓器再生医学）、独立行政法人科学技術振興機構

さがけ「細胞機能の構成的な理解と制御」領域研究者、2014年スタンフォード大学 幹細胞生物学研究所 客員准教授、2015年よりシンシナティ小児病院

消化器部門・発生生物学部門 准教授、2016年より Takeda-CiRA Joint Program for iPS Cell Applications

(T-CiRA) 研究責任者、2017年よりシンシナティ小児病院 オルガノイドセンター副センター長を兼務。2018年より現職。